

超音波(エコー)検査って何だろう？

中央検査部 主任検査技師 長門 浩美

当院で臨床検査技師が腹部超音波検査を実施するようになってから20年が過ぎました。現在では、腹部、心臓、頸動脈、下肢静脈、甲状腺、リウマチ関節の領域に広がり、今年からあらたに乳腺も検査することになりました。超音波検査の特徴はCTの様な輪切り画像が簡単にみられることです。血液の流れもみえます。装置重量も軽く、病室や救急室への移動も簡単です。

レントゲンやCTとの違い

① 超音波は空気（気体）があると、その先がみえない。

肺には空気があります。胃や腸には食べ物と一緒に飲み込んだ空気やおならがあります。そのため超音波検査は胃カメラや大腸カメラの代わりになれません。

② 骨があるとその先がみえない。

骨の表面の微妙な変化の診断に使用されています。骨に付いている腱や筋肉の診断もできますが、骨折やヒビ割れの診断はレントゲンの独壇場です。

③ 一度にみられる範囲が狭い。

腹部用の機械は扇形に写ります。浅い所は幅6cm、深い所で幅20cmです。肝臓のような大きな臓器はさまざまな角度から検査する必要があります。そのため患者さんに何度も息止めをしてもらっています。

④ 深い所が良くみえない。

超音波検査はエコー検査の別名通り、音のはね返りを捉えて画像を構成するため、はね返り音の弱い深い位置の検査は苦手です。



弱点はありますが、安全性が高く、一台でいろいろな部位の検査ができる超音波検査装置は8時15分から17時まで休みなく稼働中です。